

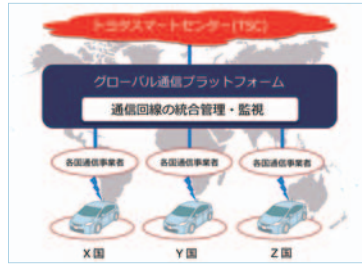
新型パッソを発売

「街乗りスマートコンパクト」をコンセプトに、コンパクト車としての基本である経済性や取り回しの良いサイズを維持しつつ、ゆとりある広い室内空間を確保しました。走りについても、ボディの軽量高剛性化や足回りの強化などで、街乗りでのフラットな乗り心地や安心感ある上質な走りを実現しました。



KDDI(株)と共同で「つながるクルマ」のグローバル通信プラットフォームを構築

当社は、車載通信機による高品質で安定した通信の確保のために、KDDI(株)と共同でグローバル通信プラットフォームの構築を推進します。当社はクルマの「つながる化」を推進するために、現在は国・地域で仕様が異なっている車載通信機を、2019年までにグローバルで共通化し、2020年までに日本・米国市場で販売されるほぼすべての乗用車に搭載し、その他の主要市場においても順次搭載を進めていきます。



86をマイナーチェンジ

2012年に発売した86は、ニュルブルクリンク24時間耐久レースや、お客様自らが参加し楽しむ競技の86/BRZレースやラリーなど、さまざまなモータースポーツで活躍し、お客様の笑顔をいただけてきました。今回のマイナーチェンジでは、「スポーツカーとしてのさらなる深化」をキーワードに開発し、より「走り」に特化した86を実現することで、スポーツカーファンのさらなる獲得を目指します。



ダイハツ工業(株)を完全子会社化

当社は8月1日付でダイハツ工業(株)を株式交換により完全子会社化しました。これはトヨタおよびダイハツのさらなる持続的成長に向け、小型車事業においてより選択と集中を進め、両ブランドにおける「もっといいクルマづくり」を一層進化させていくことを狙いとしています。トヨタとダイハツは、今後もそれぞれの強みを活かすマネジメントの独自性は維持しつつ、一体となって高度化する技術革新やスピーディーな事業展開など難易度の高い課題に対応し、両社の企業価値向上に努めていきます。今後の新興国小型車事業の強化に向けて、2017年1月を目標に、新興国小型車担当のカンパニーの設置を進めます。



4月

5月

6月

7月

8月

9月

WEC第3戦 ル・マン24時間耐久レースで2位表彰台を獲得

TOYOTA GAZOO Racingは、WEC(世界耐久選手権)第3戦となるル・マン24時間耐久レースに2台のトヨタTS050 HYBRIDで参戦し、6号車が2位を獲得しました。5号車は、23時間55分まで手の中に入れていた初勝利を残り2周での無念のトラブルで逸し、チームにとっては悔しいレースの幕切れとなりました。ル・マンの道で戦ったすべての関係者に感謝するとともに、「もっといいクルマづくり」のために、1年後ル・マンに必ず帰ってまいります。



都市対抗野球大会で初優勝

当社は、7月15日から12日間の日程で行われた第87回都市対抗野球大会で、初優勝を果たしました。社長の豊田は、「豊田市の代表として、選手たちをはじめ、選手を支え続けたスタッフの皆さん、従業員と地域の皆さんの全員でつかみとった、トヨタらしい悲願の初優勝だと思います。これまで対戦させていただいたすべてのチーム、応援団の皆様からは、社会人野球の魅力、素晴らしさを改めて教えていただきました」とコメントしました。



ロシア工場でのRAV4生産を開始

ロシアにおける生産拠点であるロシアトヨタ有限会社のサンクトペテルブルク工場にて、RAV4の生産を開始しました。同工場では2007年よりカムリを生産しており、RAV4は2車種目となります。また、これに伴い同工場の生産能力も年間5万台程度から10万台程度に増加します。RAV4は、2002年にロシアで導入して以来、市場にて高い評価を獲得し、コンパクトSUVセグメントをけん引する車種であるとともに、現在トヨタのロシアにおけるすべてのラインナップの中で、最も販売台数が多い車種となっています。



「もっといいクルマづくり」のための5大陸走破プロジェクト 第3弾を南米で開始

2014年、15年に続いて第3弾となる5大陸走破プロジェクトを8月22日に南米で開始しました。日本と現地事業体の従業員約110名が協力しながら、約3カ月半にわたり南米大陸の多様で厳しい道を走破する中で、従業員自らがステアリングを握り走行するという現地現物の経験を通じて、「もっといいクルマづくり」を担う人材の育成を目指します。

